先生はお若いころからいくつかの持病がおありで，その一つに「オオシカン閉塞」というのがあった．エウスタキオ管を欧氏管と呼んだ時代の病名である．低気圧が近づくと，このために中耳と外界の気圧に差ができて頭が痛くなると先生はおっしゃる．なぜか先生の「オオシカン閉塞」にはビールが特効薬で，症状が出始めると「ビールでも一杯」と夕食に誘ってくださる．天気の悪化はうれしくないが，雲行きが変わると弟子どもは「ビールでも一杯」を密かに期待し，ミクロトームの手順を早めに切りあげる準備をしたものであった．行先は本郷だけでなく神保町や銀座にまで及んだが，決して新しい店を開拓することはなく，いずれも先生の古くからおなじみの店であった．

これは，一つのことを長い年月にわたって研究なさったこととも符合する．その典型的なあらわれが「芝棟」（八坂書房，1991）の出版である．わら屋根の棟にイワヒバ，イチハツ等を植えて固めとする様式に関する著作で，全く類書がなく，建築史学や民俗学などの人達からも絶賛を得ている．少年時代に東京近郊で見たのが興味の発端で，それ以来折にふれて記録を続けられたが，退官までは本腰を入れて調査する余裕がなかったとおっしゃり，その後，奥様の運転で各地を精力的に探訪して得られた膨大な資料を整理して出版されたものであるから，この著作にはおよそ4分の3世紀の年月がかかっている．

このような大仕事を成し遂げられて，急に老け込んでしまわれるかと心配する声もあったが，先述のとおり次の著作に意欲を燃やしておられ，大いに期待していたところ，突然の訃報に接した．晩年の先生を悩ませ続けた帯状疱疹の痛さから解放されて，苦しみのない世界へ旅立たれた先生は，天国でどんな写真を撮っていらっしゃるのだろうか．

（福田泰二・杉山明子）

新　刊

□堀　輝三編：**藻類の生活史集成 第二巻 褐藻，紅藻類** xix＋345 pp.＋51 pp. 1993 内田老鶴圃，東京．¥8,240． **同上 第三巻 単細胞性，鞭毛藻類** xvii＋313 pp.＋62 pp. 1993 同上．¥7,210.

良く知られているように，藻類は体制は単純であるが，生活環は複雑である．例えば，緑藻には生活環の基本となるタイプは少なくとも5つはあり，褐藻には4つある．そして紅藻には3つはある．それらを環境とのかかわりでみると，さらに複雑となる．藻類全般にわたって生活史の全貌を把握するのは容易でない．

藻類を材料にして細胞構造の研究を行っている編者は，生活史や生活環を知ることは，藻に対する理解の基本として必須であるとして，藻の生き方や一生を知りたい人々のために，500余種を選び編纂したと言う．第二巻には171種が47名により，第三巻は146種が32名により，それぞれ生活史の図解と記述がされている．なお，第一巻は緑色藻類で185種を含み，1994年内に刊行予定の由である（定価8,240円）．いずれもB5判の見開き左側のページ一杯に生活史の図を掲載し，対面ページに（I）参考，関連文献（II）生活史，生活環の解説，問題点その他（III）採集方法，利用状況，培養法など，及び（IV）英語による図の説明を記述している．内容は視覚により容易に理解出来るので，必要に応じて見るほかに，暇な時に時間にまかせてページをめくるのもよい．専門家だけでなく，広く藻類に興味をもつ人は座右におくと便利であろう．学校や研究所の図書館にも備えたい書物である．一つ気になることは，当該種や近縁種で核相が未だ明かでない種にRD, n, 2nなどの記号があったり，明かな種になかったりの点である．助言に，“未知であろう…その現状を示すとともに…次代に引き継ぐ問題の提示をも心がけた”とあるだけに，改訂の際の一考が望まれる．

（千原光雄）

□川嶋昭二編著：**日本産コンブ類図鑑** 8 pp.＋214 pp. 1989. 北日本海洋センター．¥13,000. **同上 改訂普及版** xxvii＋206 pp. 1993. 北日本海洋センター．¥4,800.

コンブ科植物は，日本では，特に北海道沿岸を